

### 3.どのようなアートが、資産になり得るのか

すべてのアート作品が、資産になるわけではありません。  
むしろ、資産として評価されるアートは、ごく一部です。

では、どのような作品が、時間を超えて価値を持ち続けるのでしょうか。  
そこには、いくつかの明確な条件があります。

第一に、作家性が確立されていること。

作品が「誰によって」「どのような文脈で」生み出されたのかが説明できることは、  
資産としての最低条件です。

匿名性や装飾性が強い作品は、この時点で評価の土台に乗りません。

第二に、評価の蓄積が存在すること。

展覧会歴、批評、収蔵実績など、

第三者による評価が時間をかけて積み重なっているかどうか。

これは個人の好みとは無関係に、価値を支える重要な要素です。

第三に、市場との接続があること。

アートは閉じた世界ではなく、

ギャラリー、美術館、コレクター、オークションなど、

複数のレイヤーを持つ市場の中で流通しています。

この市場と接続していない作品は、

たとえ魅力的であっても、資産とは呼べません。

そして最後に、時間に耐えうる強度を持っていること。

流行やトレンドに依存せず、

数年、あるいは数十年後にも意味を持ち続けるかどうか。

ここに、インテリアとの決定的な違いがあります。

これらの条件を満たすアートは、

「飾られるもの」ではなく、

保有され、継承されていくものになります。

ホテルや建築空間にそのようなアートを迎え入れることは、

空間そのものが、文化的資産を内包する主体になるという選択なのです。